

アアと暴力支配に抗して開始された全国からの決起!



79.7.11
No. 169
国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八・九(公衆電話)七二〇七

熊本における定期全国大会を前に、いま全国では各分科会や青年部の委員会も終り、代議員選挙が行われています。また一方では「サミットで謀略があり得るから」などと適当な口実を設けて、手直し対策と内部調整のためにしばらく中断されていた「全国オルグ」が、内容も展望もグズグズのままに、七月一日より再開されています。ところが、このような彼らの内部事情を反映して、この「七月情勢」に大きな「異変」が生じてきている、という事例が全国からの報告や、千葉各支部「オルグ現場」から多くよせられてきています。しかも、それら一つ一つの根が深く、ますます全国的拡大の傾向にある事がはっきりしました。これが七月に入ってからのもっとも一大特徴といえます。

口をきかない「オルグ」団

三月の第一次「オルグ」以降四ヶ月を経た今日、「本部」の側は、一部反動分子のあまりにもセクト的な引きまわしへの怒りと嫌気、加えて、皮肉にも全国から「三万人のオルグ」を千葉に投入してしまつた事により、それまでのデマ宣伝とは裏腹の動労千葉の自由でたくましい前進する姿に触れた全国の良心的組合員の決起や「本部」批判によって、意識分裂・組織的亀裂をますます深めている状況にあります。

「オルグ」の特徴について言えば、

- ①「4/28〜5/1 第二次オルグ」以前↓投石・バール・竹やりなどで用意し、暴力分子先頭に数百名で「攻め込む」型。
- ②それ以降↓「サミット中断」まで↓「国労へ行け」「脱退届を出せ」とまで言う陰湿な「オルグ」の型。
- ③「サミット中断」以降七月一日から再開された「オルグ」では、「全国からの動員者がほとんど口をきかない」と、現場の皆が不思議がるほどの「異変」が生じています。これは「無意味なオルグ」に引きまわされた全国の真面目な組合員が消耗し、意識的に革マル分子に反抗していることを示しています。

デマ宣伝のネタも尽きて権力に泣きつく「本部」暴力集団

この「本部」の消耗ぶりは「動力車新聞号外」をはじめとする、彼らのデマ宣伝にも端的に現れています。

「公労委」「交渉」「財政」「蘇我支部結成」等々、全ての問題に関する彼らのデマ宣伝が、この間の動労千葉の前進によって、事実をもってひとつひとつバケの皮がはがされてしまつた現在、彼らのデマ宣伝の中心は「動労千葉へ結集すると

裁判に訴えても個人個人から組合費をとるぞ」とか「動力車会館の明渡しを要求する」などと法律も常識もとび越えたただただ感情むき出しの「脅迫一辺倒」になり、反労働者の暴力集団の本性をさらけ出すまでになってきました。

いまだに「一四〇〇名は「本部」の組合員」と自称する「本部」が(彼らの論理によれば)「自分の下部組合員」を、裁判で権力に売り渡すぞと(それ自身、論理矛盾もはなはだしい)脅迫しできない、という最もみじめなところまで落ち込んでいるところに彼らの破産ぶりが示されています。

「決議」という名で「踏み絵」を強制

また、今日の特徴の第三は、中江前本部副委員長の勇気ある決起と「総連合構想」に心底おびえて、口をきわめてのしり、全国に「糾弾決議」なるものを強制する一方で、大あわてで内部固めに走りまわっているところにあります。

これは「糾弾決議」を動労千葉の組合員に示してカク乱するということよりも、全国各地で様々な形で開始された「造反」にあわてた「本部」が「決議」という形の官僚的「踏み絵」をもって締めつけなければならぬほど「動労改革」を求め声が全国に浸透してしまつていているという事を証明しています。

動労千葉の前進につれ、全国各地からの激励や問い合わせ、『日刊』の注文等々が急激に増えています。動労千葉の勝利は歴史の必然です。全国で決起した多くの人々の先頭に立ち、動労大改革を勝ちとって行きましょう!